



養正翁後集

下

5  
4646  
2













うららかにしるべきはなほあり

何れもそほやうはらぬはなほあり

年よりふつたのほやうはなほあり

一測の傍へしはなほあり

細細のほららぬはなほあり

まらふはなほあり

所節の中しはなほあり

叱りぬはなほあり

法速あつはなほあり

管田あれのほやうはなほあり

略をとも今ふはなほあり

あつはなほあり

世に人かたはなほあり

はれのほらぬはなほあり

加はなほあり

はなほあり

手はなほあり

あつはなほあり

たつはなほあり

はなほあり

札

照

札

照

札

照

札

照

札

照

一

札

照

札

照

札

照

札

照

札

月まゝも若ふとすつも昔し心葉 悠

はやく年ゆる夏の秋入 机

そつれくもふ移ちれ木葉霜 悠

あゝも甲のまゝるも秋 机

返るすれもふ移ちるも 悠

たもくあけもふまに花葉 机

田上のまゝもくも移ちる 悠

かゝるもくもふ移ちるも 机

あゝも甲のまゝるも秋

まゝも甲のまゝるも秋 悠

りやあゝも甲のまゝるも 雨机

ひゝア坊あゝも甲のまゝるも 抱机

やゝ入の中もあゝも甲のまゝるも 機 机

侍も甲のまゝるも秋 机

まゝも甲のまゝるも秋 機

まゝも甲のまゝるも秋 机

まゝも甲のまゝるも秋 机



まをちのら〜りゆきよと寝たけ

候

多梅はうりのほむりのくれ

候

〜れたんの〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

松よ〜の〜の〜

候

葉よ〜の〜の〜

候

〜中よ〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

〜〜〜の〜の〜

候

月夜よきうくく 夢酒あししそ 邸

花さくさくのはさきさき 赤瓶 邸

大いさく人のあそびり ぬ境を 机

かりくぬぬのぬのぬ ぬ合ぬ 邸

下蔵もさきさき ぬ境を ぬたり 邸

ぬ境をさきさき ぬ境を ぬたり 机

ぬ境をさきさき ぬ境を ぬたり 邸

ぬ境をさきさき ぬ境を ぬたり 邸

ぬ境をさきさき ぬ境を ぬたり 邸

ぬ境をさきさき ぬ境を ぬたり 邸

海さきさき ぬ境を ぬたり 邸

月さきさき ぬ境を ぬたり 邸

清さきさき ぬ境を ぬたり 邸

梅さきさき ぬ境を ぬたり 邸

梅さきさき ぬ境を ぬたり 邸

梅さきさき ぬ境を ぬたり 邸

梅さきさき ぬ境を ぬたり 邸

梅さきさき ぬ境を ぬたり 邸

おのれも 能く 経つ 用 志して

系 断 々 々 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

まゆの木のまゆけはやめし月のまゆ

まゆけしふ合れまゆけすまゆけ

あらししと月まゆけまゆけまゆけ

あらししと月まゆけまゆけまゆけ

戸陽まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ

まゆけまゆけまゆけまゆけ





心おこしむるもの又おこり

仲吹くさるるもの又おこり

用定しふぬるもの又おこり

死しむるもの又おこり

左那のくさるるもの又おこり

新げあさるるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

撰分て編むるもの又おこり

この年すくもの又おこり

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

池

竹

下殿とはらりしすまゝのすまのす

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

心おこしむるもの又おこり

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

池

竹

札

きよのつゝゆすふ月あはるきよのくち

池

くはられをうり新の由子

竹

ぬきまふゆまふえんる底あか流

池

筆のうらせそは筆まよや

池

筆のうらせそは筆まよや

竹

あはれも左のふさそひよはる

池

あはれも左のふさそひよはる

池

あはれも左のふさそひよはる

竹

あはれも左のふさそひよはる

池

あはれも左のふさそひよはる

池

ひらくと千はそふとや海の内 巻札

禁はれぬりのあはれ葉 巻札

こころもあはれにふさそひよはる

池

力の鞘のあはれにふさそひよはる

竹

あはれも左のふさそひよはる

池

あはれも左のふさそひよはる

竹

あはれも左のふさそひよはる

池

あはれも左のふさそひよはる

竹



深き竹返車にららりてえせり也

嫁にすくもに錦織もの入

二つうらふくむに遠よ志を止む

湯あけに遠空の月

のこぼれもかきぬわら昔

あまのはるの清きうらね

木戸のあけに遠空をまけり

一夏熱のあけに帰る丸魚

あまのはるの清きうらね

ららりとの雲を帰るよきさうり

春の海を越へてはるのうらね

又あまのはるの清きうらね

あまのはるの清きうらね

日々このうらねをすくもに

自惚れにけしむる志のあまの

扶杖あまのはるの清きうらね

やうに伐るまきうらね

汎る向つてあまの清きうらね

あまの清きうらね

あまの清きうらね

生地のほくほく(竹)

竹

新(竹)

竹

さつと(竹)

竹

見(竹)

竹

何(竹)

竹

蘭(竹)

竹

菊(竹)

竹

目(竹)

竹

月のなみ(竹)

新(竹)

是(竹)

板(竹)

冬(竹)

ち(竹)

簀(竹)

ほ(竹)

竹

Blank area with faint bleed-through text from the reverse side.

六月も丸くはなれぬ四の音も

流石の終りもあつて

戸植木の寸とる葉とついで

ちりり〜葉のすけり

多花中葉のさきも花のうら

月うらうれたもみ

此のよみ櫛うら〜

中葉のさきも〜

つりも下作も〜

認め〜

新葉もさきも〜

葉と〜

伊〜の〜

き〜

き〜

干〜

下〜

〜

寄戸川も〜

色〜

柳のやまより 枝のさす月の月

さるのよきまじり 雲のなまは枝

行きの雲を 雲の枝のさす月の月

仕入 枝のさす月の月

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

山にさす 雲のさす月の月

雲のさす月の月

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝

さるのよきまじり 雲のなまは枝



月あけを汗の流るる月の角、岳  
 くらまのふまを蘇子ふ麻 丸  
 飛つておぼむるをさす持らるん 岳  
 本と舞のまをさくかゝる あ好 丸  
 餅とやれも別は初めおまを 丸  
 さくして又さくねる淫を 丸  
 振りの高きさくす赤の舟 岳  
 何ぞやわくまをぬれを 丸

天保中

花さくしちるる 萩のまをさく 丸  
 うれぬるるるひる 鳴虫 蓬陽  
 月の味かゝるまをけい 野豊  
 かゝるおまを海をけい 木仙  
 高きまをさく 小まをさく 陽  
 はるるの編をする 子塔 丸  
 旗のまをさく 丸のまをさく 仙  
 月あけのまをさく 丸 叟





まゝのまゝはふちの月の

陽

まゝのまゝの作とすめつ

丸

海にまゝのまゝのまゝの

仙

海にまゝのまゝのまゝの

使

まゝのまゝのまゝのまゝの

丸

まゝのまゝのまゝのまゝの

陽

まゝのまゝのまゝのまゝの

使

まゝのまゝのまゝのまゝの

草

中おれまゝのまゝのまゝの

蓬陽

まゝのまゝのまゝのまゝの

蒼丸

まゝのまゝのまゝのまゝの

陽

まゝのまゝのまゝのまゝの

丸

まゝのまゝのまゝのまゝの

陽

まゝのまゝのまゝのまゝの

丸

まゝのまゝのまゝのまゝの

陽

まゝのまゝのまゝのまゝの

丸

中



日御とては神のつらまはる  
 せに御まをせを信ふ信はぬ  
 かげ元のまを新し記録うら  
 酒申るまはるちを舞を  
 妻御のまをあらつく月のま  
 きつるまをまをみせ  
 古きまを御まをまを  
 はひをみせれとにけまをぬ  
 ちまを御まをまを花ま  
 十まのまをまをまを  
 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

二のまのまをまを  
 姑まをまをまを  
 申るまをまをまを  
 新まをまをまを  
 命まを先怪我がまを  
 白人まをまをまを  
 丹悵まをまのまを  
 行まをまをまを  
 御まをまをまのまを  
 下まをまをまを  
 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

あつちのうらやまをのぞく月

札

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

札

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

札

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

札

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

あつちのうらやまをのぞく月

福

ちげふらも照のまふされぬを修り 英  
 携へあつらふ降の掃 蜀 通  
 河中もさるゝのきけ小昔多く 札  
 流の工まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 ぬく世の習のまじゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 戸あけけ言のまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 縁もちさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 ちげふらも照のまふされぬを修り 英  
 携へあつらふ降の掃 蜀 通  
 河中もさるゝのきけ小昔多く 札  
 流の工まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 ぬく世の習のまじゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 戸あけけ言のまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 縁もちさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 ちげふらも照のまふされぬを修り 英

けくろくとりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 地を者のあつらふはゝゝゝゝゝゝゝ 札  
 ちげふらも照のまふされぬを修り 英  
 携へあつらふ降の掃 蜀 通  
 河中もさるゝのきけ小昔多く 札  
 流の工まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 ぬく世の習のまじゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 戸あけけ言のまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 英  
 縁もちさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 通  
 ちげふらも照のまふされぬを修り 英



まをうけし 徳はの 秋におこり 集

まのふくまを ねを ね 集

二ふ ちを ちを ちを 集

やまの 人 ちを 集

を 集

まの 集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

集

く世にありてついでに後ふ方の月

振子にありては中一とあり

かきとみるに梅輪あはる男とて

新木中へさるる雪のせめて

船もさちよとて舟のひらくは

かへ細りてさるるは

きこゆる船中へさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

きこゆるさるるは

ゆきふりしるしをいふはなをいふのき  
美

おしるしをいふはなをいふのき  
美

川をいふはなをいふはなをいふのき  
美

中をいふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美

あつたふはなをいふはなをいふのき  
美





何れも角の月のちいさく〜苗かき

ちいさくの中ふちうさのちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

は〜い〜い〜い〜い〜い〜い

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ひら〜い〜い〜い〜い〜い〜い

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく

ちいさくちいさくちいさくちいさく







花の女もあやるふころまはし

まはしりくしとまはりてあや

小利きり 雛居り始のうねつけ

丸けりてくまてあやるは

根株のあやり 舟の国なりうね

あやるもあやしうねとあやる

あやるもあやるもあやるもあやる

あやるもあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

三

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

あやるのあやるもあやるもあやる

二

英

隆

机

金

圃

英

隆

机

金

圃

英

隆

机

金

圃

英

隆

机

金

圃

揚子のそとまきしりく小ぶあ 英

ほしはせしきく新中いれい 陸

控るまてらちしれ時をえむたり 机

志おくまのしつ野のすたろし 會

送るもたふすきたるはの月 英

喉せほ葉のたふきく縁の勢 圃

清合のそは波のふらまり 陸

志せしきく帝の非 机

氣のそくそくおしおのそ 會

乃んて猫の小やうしりたし 菜

名

此れのみかむむ曲の志例はりし 圃

法地ゆきすものおもむき 陸

持ぬしそくしりそ入るはそみ箱 机

と初に結うひのひらるかりき 會

並へしそ餅をそふまそ送るのけ 圃

とくはせけれとつけるは機 英

けりひしけつてつたるきと 陸

たまよしとくちの網は結 机

若ふの顔そまじ法を達 會

此の機かた様のきくはり 圃



弘化四未年十月

京寺町四条下町

山城屋佐兵衛

書

同二条堺町西入町

林 芳兵衛

大坂心齋橋筋博勞町

河内屋茂兵衛

林

紀伊若山新通二丁目

帶 屋伊兵衛

本朝陶器攷證

全部六冊

本書ハ金森得水翁が多年切磋シテ諸國陶窯ニ就キテ其國史及名各源由ヲ精鑿考訂セラレシ書ナレバ好事家ノ必至之便利ハ固ヨリ宗家ノ一寶ニシテ其道ニ遊フ諸彦ハ須臾モ座方ヲ離ス可カラサル書ナリ特ニ陶工業ノ輩ハ常ニ參考トシテ備ヘ置カハ其實益アル少ナカラズト云爾

大坂心齋橋筋博勞町角

青木嵩山堂

京都二条通高倉東入

林 芳兵衛



